

北イタリアの地方都市・ヴェローナ 都市の固有性を磨き魅力的なスローライフを創生
—近代的価値とは距離を置き、歴史性や地域性を反映、地場の資源に付加価値をつけ充実した時を築く—

東京藝術大学美術学部建築科 講師 博士(工学) 河村 茂

1. 都市の地理と歴史

・位置と規模 渡河地、街道の結節点・分岐点

ヴェローナは、イタリア北東部ヴェネト州に属し、ヴェローナ県の県都を形づくっている。このまちはイタリア第二の川、アディジェ川の**渡河地**として、ヴェネツィアのカナル・グランデ同様、川がS字状に蛇行して流れる地点の両岸に形成された街で、ポストゥミア街道、クラウディア・アウグスタ街道、ガリカ街道など、帝都ローマと北方及び東方の属州とを結ぶ、**ローマ街道の結節点・分岐点**に位置するなど**交通の要衝**にあり、人口は約25万人の基礎自治体・**コムーネ**(12世紀に都市特許状を得た)である。ヴェローナは、近代産業都市ミラノと中世の商業都市で今日、観光都市として名高いヴェネチアの中間にある、北イタリアの古都で、ミラノからはユーロスターで1時間20分強(東に160km)、ヴェネチアからは1時間少々(西に115km)にある。

このまちは、**古代ローマの遺構**があったり、**中世都市**としてシェイクスピアの戯曲「ロミオとジュリエット」の舞台となるなど有名で、蛇行する美しいアディジェ川に囲まれた旧市街は、2000年に**世界遺産**にも登録され、周辺にあるヴィチエンザ、マントバ、フィレンツェなど世界遺産の地を見学する基地ともなる、**珠玉の中都市**である。

日本からは、ツアー観光で大した期待もせずに連れてこられる街であるが、訪れてみると誰もが、その佇まいに大満足を覚える、特に夕暮れ時の市街の景色は、旅人をして去りがたい気持ちにさせ、この地の佇まいを一生脳裏に刻むことになる。

観光的にみると、ヴェローナは、ローマ、フィレンツェ、ヴェネチアなどに次ぎ、第6番目に観光客が多いことから、この地の魅力のほどがわかろうというものである。日本でいえば京都に次ぐ金沢といったところか。ヴェローナは、いってみてよかったまちの代表である。



イタリア、ヴェローナの位置



ローマ街道の十字路に位置



アディジェ川沿岸風景

「地方創生」支援プロジェクト



・歴史 幾多の戦いの舞台

ヴェローナは、郊外に配置された鉄道駅から約 1.5 キロ(徒歩約 20 分)のところであり、城壁に囲まれたヌオーヴァ門を抜け、ヌオーヴァ通りを真っ直ぐに行くとアルビーニ通りに出る。ここを渡り旧市街に入ると、ブラ広場の奥に**ローマ時代の建造物・アリーナ***(円形競技場)が、ローマの「コロッセオ」に次ぐ巨大建造物としてあり、時が 2000 年以上も流れているにもかかわらず、奇跡的にほぼ完全な形をとどめ、その存在を誇示している。また、その背後にはレンガ色した赤い屋根が続き**中世の面影**を留める趣ある**街並み**が見え、この地の長い歴史を感じさせる。

ヴェローナは、紀元前 1 世紀頃に、既に共和政ローマの支配下に入り、古代都市の基幹施設として今日もなお存続するテアトロ・ロマーノ(紀元前一世紀末建造のローマ劇場)や、その後の帝政ローマにおけるアリーナ(紀元前後の頃、建造)などが建造された。テアトロ・ロマーノは、近年、修復・復元されアディジェ川の川辺に、その姿を保っている。

その後もこの地は、交通の要衝にあることから、度々覇権を目指す勢力の間で戦いの舞台となった。中世期も、この地の支配者は、スカリジェリ家(デッラ・スカラ家)、ヴィスコンティ家、カッラーラ家と変わり、1405 年にはヴェネツィア共和国の支配下に入る。

ルネサンス期のヴェローナは、商業・文化の中心として発展するが、この時期は戦いと疫病の影響で人口の変動が激しく、1511 年の 3.8 万人から 1512 年は 2.5 万人、そして 1526 年は 5.5 万人を数えるが、1530 年にはペストの流行により 2 万人にまで減少してしまう。しかし、その間も、この地には数多くの学校が建設され、ヨーロッパ規模で文化的な活動が展開されていた。

その後、ナポレオン・ボナパルトがイタリアに進攻すると、ヴェネツィア共和国は滅び、ヴェローナはフランスの支配下に置かれる。そして 1797 年からはオーストリア領、1866 年からはイタリア王国領にかわる。

※アリーナとは「砂」の意。敷かれた砂は血をしみ込ませるためのもの。



都市のゲート



人々で賑わうブラ広場



お洒落なマッツィーニ通り

2. 都市の構成 市街壁、門、ゲート、広場、通り、搭、橋、城、教会、アリーナ、劇場等々

ヴェローナに自動車で行く場合、ヌオーヴァ門から入りチッタデラ広場の地下にある駐車場

「地方創生」支援プロジェクト

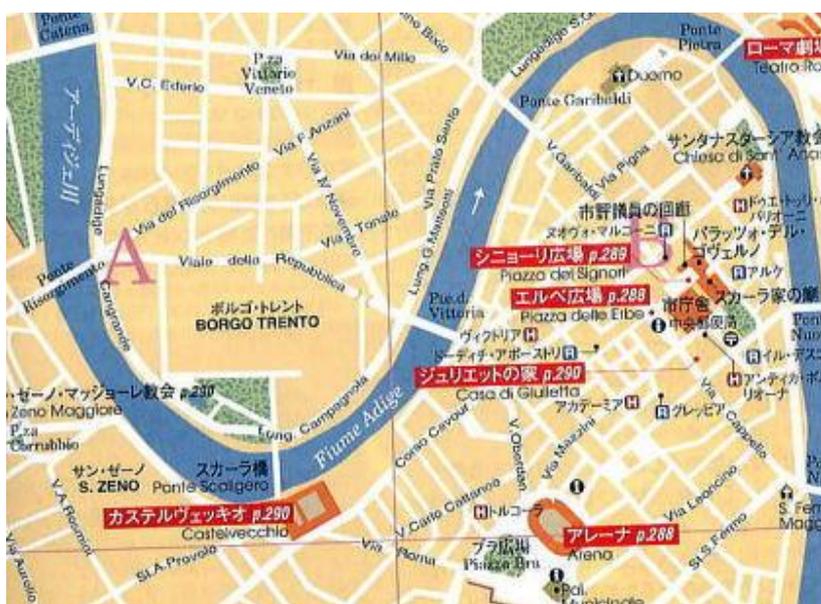


に車を置き、通りを行くとゲートが現れる。そこをくぐるとパッと目の前が開け、都市核を形成する広場が現れる。これが「ブラ広場」である。

ここブラ広場は、都市ヴェローナの表玄関として、いつも沢山の人で賑わっている。この広場の周囲にはレストランやカフェもあり、テラス席で食事を摂る人も多い。広場の奥には都市のシンボルとしてローマ時代のアリーナ（2万人収容）が配置され、市民の文化拠点となっている。

ブラ広場からアリーナの脇を通り、ヴェローナ随一の繁華街に通じる、マッツィーニ通りを400mほど進み左手に折れると、見えてくるのがエルベ（野菜の意）広場である。ここは広場としては少し小さ目だが、その一角には朝からテントや屋台の形式で、小さな露店が並び市場を形成していて、市民に対しては野菜や花、果物など日常生活に必要な品々を、また観光客には土産物として民芸品など、この地方特産の品を販売している。また、その周りにはレストランやカフェがあり、大勢の市民や観光客で賑わっている。このカフェの後ろには回廊がとられていて、雑踏を逃れた人々がここに座って一休みしている。

エルベ広場の北側にはシニョーリ広場があり、中央にはダンテ像が置かれ、その周囲を中世〜ルネッサンス期にかけ建築されたポDESTA宮（市長官邸）カンシニョリオ宮（スカラ家邸宅）、ラジョーネ宮（法廷）など歴史的建築物が囲んでいて、イタリアらしいヒューマンスケールの広場となっている。名物のソフトクリームを片手に、この広場の界限性に浸りながら、ゆっくりめぐってみるのも楽しい。また、広場に面し建物の一角から天に向かい、「ランベルティの塔（高さ84m）」が伸びている。この塔、ヴェローナの街を一望できるので、飽きたらこの塔に登り市街を一望するのもいい。中世の街並みが、周囲の自然と調和していて、目が癒される。



ヴェローナ旧市街主要施設の配置



エルベ広場

「地方創生」支援プロジェクト



・世界遺産「ヴェローナ市街」

このようにヴェローナの旧市街は、碁盤の目状に整備された古代の計画都市を基礎として、その上に中世の街並みが構築されている。即ち、都市の基軸となる**ブランド・ストリート**（マツツイーニ通り）が中央部を通り、その奥に**都市核**ともいえるエルベ広場（商業核）やシニョーリ広場（政治核）が配され、**ランドマーク**としての塔（ランベルティの塔）が建ち、それらの背後をエッジとしてのアディジェ川が流れ、その川沿いには、ドウオーモにピエトラ橋、ヴェッキオ城にスカリジェロ橋、それにテアトロ・ロマーノなどの、**スポット、ビューポイント**が散りばめられ、世界遺産としての市街を形成している。また、郊外には、ブドウやオリーブの畑、また丘の上には森が広がり、市街を見渡す展望台も配置されている。



エルベ広場とランベルティの塔



ドウオーモ 左下はピエトラ橋



テアトロ・ロマーノ

3. 歴史遺構と地場産業の活性化 地場の資源を活用（付加価値づけ）

○**ストックの活用** イベント（オペラ、コンサート、スポーツ）の演出、物語の舞台化、伝説の創作

ヴェローナは、世界遺産として趣ある中世の街並みが広がる中、ローマ時代の遺構が随所（一部は地中）に残存している。文化核としての**アリーナ（円形闘技場）**は、その代表で、今日では、この楕円形をした闘技場を舞台として活用し、オペラやロックコンサートなどが催されている。とりわけ毎年6月～9月にかけて上演される、野外オペラ（**アリーナ・ディ・ヴェローナ音楽祭**）は、夏の風物詩として有名で、今日、世界中から多くのファンを集めている。夕暮れ時、観客のかざすキャンドルの灯と輝き始めた空の星とが、大理石の闘技場に映え醸す光のハーモニーは、この場所独特のもので、とてもこの世のものとは思えぬ光景を描き出す。ただ、このシーズンはホテルの料金が高騰するため、人気の演目日などは予約が取りにくくなる。

ブラ広場からマツツイーニ通りを歩き、エルベ広場とは反対方向に折れると**ジュリエッタの家**がある。ここはシェイクスピアの悲恋物語「ロミオとジュリエット」のモデルとなった場所で、どこかロマンチックな雰囲気が漂う。この物語は14世紀のヴェローナを舞台としており、ジュリエッタの家の前庭に佇むと、若い二人の愛が地元の名家同士の抗争に巻き込まれ悲劇に変わっていく、あの映画や舞台でおなじみの名シーンが蘇る、そんな場所である。

このジュリエッタの家は、現在、観光名所となっていて、館内には当時の家具や日用品が展示されている。また、ジュリエットが佇み窓の外を見つめロミオを思い浮かべた、あの**バルコニー**もある。その前庭には今日、**ジュリエットの銅像**が建っていて、この像の右胸を触ると「愛が

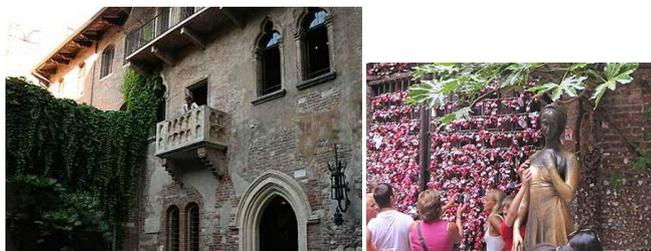
「地方創生」支援プロジェクト



「叶う幸福が訪れる」というジュリエット伝説が生まれており、これを信じて沢山の人がこの像に触れるため世界中からやってくる。一方、相方のロミオの家も近くにあるが、こちらの方は現在ごく普通の住宅として使われている。



野外音楽祭などが催されるアリーナ



ジュリエッタの家 前庭の銅像

○地場の食材に付加価値創出 スローフード運動

ヴェローナは、食べ物が実に美味しいまちである。肉料理に魚料理を問わず、ミシュランガイドで星がつくレストランが沢山ある。ヴェネト地方の農村部は畜産のほか果樹園も営んでおり、「イタリアンワイン（赤のヴァルポリチェツラと白のソァーヴェ）」の産地としても有名である。ヴェローナから車で15分も走ると、見渡す限りブドウ畑が広がる。そしてそこかしこにカンティエーナ（ワイン醸造場）が姿を現す。カンティエーナでは自由にワインの試飲ができるので、気をつけないと飲みすぎしてしまう。

近年、スローフーズ運動^{※2}への関心が高まり、世界の各地でイタリア料理の人气が上昇、これに関連し料理の食材への関心も高まっている。ワインは言うに及ばず、昨今は「エクストラバージンオリーブオイル」も人気がある。このオイル、イタリア料理に欠かせないこともあるが、体にもよいということで、世界のスーパーマーケットで取扱い店が増えている。

ただ、イタリア産オリーブオイルといっても、実はブドウの品種以上に、その数が多い。イタリアも日本と同じく細長い国で、北はスイスから南はアフリカ近くまで国土が広がり、土地土地で気候風土が異なっていて、オリーブの味、香り、コクなどにも違いがある。また、料理との相性もある。もちろん値段もリーズナブルなものから高級なものまで様々で、一般的にスーパーマーケットで手に入る安価なものは、地中海沿岸の様々な産地（スペイン、ギリシャ、モロッコ、トルコなど）のオリーブオイルを、ブレンドしている場合が多い。

良質なオリーブオイルを生産するポイントは、収穫から加工までの時間にある。時間が経てば経つほど旨味や体に良いとされる成分が減少していく。エクストラバージンオリーブオイルの生命線は、この時間にある。イタリアでは伝統的に高品質なものは、決まったエリア内の畑で、生産供給可能な量を安定的につくってきた。イタリア市民は、日頃は安価なものをスーパーマーケットに求めるが、特別な日や来客がある時には、こだわりのオリーブオイルを用い料理する。

※2 イタリアでカルロ・ペトリーニが1986年に提唱した国際的社会的運動、ファーストフード（早く安く

「地方創生」支援プロジェクト



大量に、世界に普遍性を持って供給) に対抗、**土地の伝統的な食文化、食材を見直す動き**。転じてスローライフ(ゆっくり、ゆったり、地域固有の価値尊重)、ローカル・ファースト(地域優先、サステナブル(持続性)の確保)運動へと発展していく。

4. 人生の楽園で至福の時を過ごす ヒューマンスケール、絵になるまち、クリエイティブな暮らし

ヴェローナと言えばスカラ家(「スカラ座」は、この家の娘の嫁ぎ先であるミラノ、そのスカラ教会跡に建った劇場に由来)で、その領主の居城は、市内を曲がりくねり蛇行して流れる、アディジェ川に面し建てられた**ヴェッキオ城**である。14世紀に建てられた城で、城内は市立美術館となっていて、ゆっくり鑑賞できるが、その入れ物である城の方が印象的である。城を構成する砦や城壁、通路、中庭の保存状態が良く、当時の雰囲気を感じることができる。

城の周囲は高い塀に囲まれており、この赤レンガの城壁に囲まれ、城から伸びる優雅な橋は「**スカリジェロ橋**」で、いかにも中世の橋といった造形をしている。実は、この橋、第二次世界大戦でドイツ軍の攻撃を受け一度破壊されてしまった。しかし、この地の人々は川の中から煉瓦や石を拾い集め、**元の姿に復元**してしまう。



アリーナとスカリジェロ橋、橋の付根にヴェッキオ城



ヴェローナの丘からの眺望

・地域の底力、ついに世界遺産登録

中心市街の北に位置するドウオーモ、その東側に架かる**ビエトラ橋**(市で一番古い現存建造物)を渡ると、アディジェ川近くに紀元前からの形を留める、半円形のローマ劇場(テアトロ・ロマーノ)が現れる。この脇から小さな路地のような坂と石段(240段)を登っていくと(10~15分位)、展望台「**ヴェローナの丘**」に辿り着く。ここからはアディジェ川、サンタナスタシア教会、ランベルティの塔など、中世の雰囲気を色濃く残すヴェローナの街の佇まいが大変綺麗に見える、お薦めのビュースポットである。この丘から眺める市街とその周辺景観は絵のように美しく、多くの人々の脳裏に刻まれ、いつまでも記憶に残る場所となる。

ヴェローナ市民は、**歴史の重層性**や**生活の多様性**を大切にし、小さくとも誇れる都市をめざし、「大きいことはよいことだ式に」利便性や経済効率性を重視し、古い建造物を近代建築に置

「地方創生」支援プロジェクト



き換えてしまうのではなく、リノベーション、コンバージョンによって手を入れ、修復復元する形でまちを再生させる途を歩んできた。そうやって1970年代前半から続けてきた世界遺産化の市民運動がようやく実り、2000年に旧市街が世界遺産に登録された。これにより市民のこの街に対する思いがさらに高まっただけでなく、都市の魅力にも箔がつき、訪問客がさらに増加している。

ヴェローナの人口は約25万人、チェントロと呼ばれる旧市街（城壁の内側）には約10万人が暮らしており、古代（遺構・遺跡）から中世（街並み、物語）そして現代（ワインとオリーブ、車にユーロスター）まで、層を成すようにして先人が大地に刻んできた、そんな時の記憶を感じながらクリエイティブに暮らせる魅力ある都市となっている。

ヴェローナの中心軸を形成する繁華街のマッツィーニ通りには、グッチ、ルイヴィトン、ブルガリ、エルメス、アルマーニなどのブランドショップが勢ぞろいしており、高級デパートのコインやユーピムも覗いてみる価値がある。また、日用品の購入には市内の専門店やスーパーマーケットなどが幾つかあるが、ヴェローナ市民は週末などに車で郊外の大型スーパーに買出しに出掛けることが多い。郊外には専門店のほかレストランや映画館などが揃っていて楽しめる。

ヴェローナは、こじんまりしており、ヒューマンスケールの大変居心地の良い街である。市内の主要な移動手段はバス（1ユーロで1時間乗り放題）と自転車であることから、必然的に歩くことが多く、健康的な生活を送れる。歩道は、ほとんどのものが薄いピンクの大理石でできていて、気持ちよく散策することができる。また、中心部は車を制限しており、街は平坦なので（石畳で少々道がでこぼこしている）自転車の利用が最適である。



世界遺産「ヴェローナ市街」



郊外のブドウ畑

・スローライフの実践 生活のクオリティ

ここヴェローナは、人間が主役の都市として構成されており、この街の魅力は、何といても治安の良さと佇まいの美しさである。街中をアルプスの水がとうとうと流れるアディジェ川に囲まれ、ローマ時代の遺構や中世の雰囲気を残す統一された街並みの中、地場の産物（野菜や果物、ブドウやワインまたオリーブオイル、またそれらを用いた料理、化粧品、工芸品など）に囲まれ暮らしは豊かな時を刻んでいく。

この地は農業、軽工業、生活、文化、交通、自然環境など、暮らしの要素がほどよく調和しており、古代の遺構や中世の雰囲気を醸す旧市街から、歴史を感じたり伝説的な物語を体感しながら

「地方創生」支援プロジェクト



ら、地場の料理を味わったりブランド品の買い物(ヴェローナは、靴の生産においてイタリアNo.1)や、歴史的建造物を活用して催されるイベントを楽しむなど、安心して心地よい時を過ごすことができる。

また、街は清潔で、文化的な催し物(広場や教会で、夜行われるジャズ、カンツォーネ、ロックコンサート)も無料だったり、極めて安価で楽しむことができる。ミラノやローマ、フィレンツェに比べると家賃も安く、たいそう裕福で充実したクオリティの高い暮らしができる。そしてその気があればミラノやヴェネチアにも簡単に掛けることもできるし、ヴェローナ空港も近くにあり、ビジネスにも生活にも何ら不便を困わない。

イタリアという国は、都市と地方の生活差が小さいことに特徴がある。地方の中小都市は大都会の経済都市とは一定の距離感を保っており、地方それぞれの固有な価値を大切に、自治都市としての独自性・主体性を維持し、その特性を発揮する形で様々に交流し生活を豊かにしている。イタリアでは片田舎にも素敵なお店があって、洒落たオリジナルな商品を並べているのをよく見かける。大都市や中小都市、そして町や村も、皆それぞれにアイデンティティを有し、自分たちのまちに誇りを持って、その個性、魅力を競い合うようにして、マイペースで、人生を味わいながらゆったりと暮らしている。

「地方創生」支援プロジェクト



参考資料

坂本鉄男;イタリア 歴史の旅,朝日新聞社,1992

篠原修;イタリア・ギリシャにおける都市整備プロジェクトとデザインコントロールを訪ねて,平成16年度海外調査報告書,(財)都市づくりパブリックデザインセンター,2005 <http://www.udc.or.jp/activities/kaigai/pdf>

村上義和;イタリアを知るための62章,明石書店,2013

陣内秀信;イタリア都市の空間人類学,(株)弦書房,2015

ウィキペディア「ヴェローナ」;<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

イタリア政府観光局「ヴェローナ市」;<http://visitaly.jp/unesco/citta-di-verona>

掲載写真等

イタリア、ヴェローナの位置、ローマ街道の十字路に位置;<https://ja.wikipedia.org/>

アディジェ川沿岸風景;<https://www.tripadvisor.jp/>

都市のゲート;<http://4travel.jp/>

人々で賑わう表玄関プラ広場;<https://ja.wikipedia.org/wiki>

お洒落なマツィーニ通り;<http://branch.his-j.com/>

ヴェローナ旧市街主要施設の配置;<http://www.geocities.jp/mensplaza21/italy>

エルベ広場;<http://www.veronissima.com/>

エルベ広場とランベルティの塔;<http://dlt.flier.jp/ita-03>

ドゥオーモ;<http://www.geocities.jp/>

テアトロ・ロマーノ;<http://www.veronissima.com/html/gallery-teatro-romano>

野外音楽祭などが催されるアリーナ;<http://huglog.jp/>

ジュリエットの家、前庭の銅像;<http://visitaly.jp/unesco/citta-di-verona>

アリーナとスカリジエロ橋、橋の付根にヴェッキオ城;<http://tutto-italia.seesaa.net/article>

ヴェローナの丘からの眺望;<http://yukakoch.exblog.jp/>

世界遺産「ヴェローナ市街」;<http://www.hankyu-travel.com/>

郊外のブドウ畑;http://www.veronissima.com/html/wine_bardolino

「地方創生」支援プロジェクト

